



2023年2月10日

各 位

会社名 株式会社イーディーピー  
代表者名 代表取締役社長 藤森 直治  
(コード番号：7794、東証グロース市場)  
問い合わせ先 専務取締役 兼 総務部長 高岸 秀滋  
(TEL 06-6170-3871)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は本日開催した取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2022年11月11日に公表した2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2023年3月期通期業績予想の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	3,098	1,365	1,428	997	398.07
今回修正予想 (B)	2,706	1,242	1,217	840	339.76
増減額 (B-A)	△391	△122	△210	△157	
増減率	△12.6%	△9.0%	△14.8%	△15.8%	
(ご参考)前期実績 2022年3月期	1,562	520	527	374	174.13

(注) 前回発表予想 (A) 及び今回修正予想 (B) の2023年3月期の1株当たり当期純利益 (予想) は、公募株式数 (360,000株) 及びオーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分 (64,300株) を含めた期中平均株式数により算出しております。

#### 2. 通期業績予想修正の理由

当社の主力商品であるLGD (Laboratory Grown Diamond:人工ダイヤモンド宝石の総称) 用種結晶は、LGD製造企業の活発な設備投資や新規のLGD製造企業の設立による供給量の拡大で、市場が拡大してきました。

しかし、2023年3月期第2四半期会計期間の末頃から、一部でLGD供給量の過剰感が見られるようになり、特に2カラット以下の小型宝石の業者間取引価格の値下がり傾向が顕著になってまいりました。その結果、当社の大手LGDメーカーの一部では、小型宝石生産用の種結晶の購入量を減らし、大型宝石生産用の種結晶の購入量を増やす方向に舵をきる傾向が見られます。

2022年11月11日に公表いたしました2023年3月期の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」(以下、

前回発表予想という)の時点では、小型宝石生産用種結晶の受注減の影響を大型宝石生産用種結晶の受注増で十分に補えている状況でありました。しかし、小型宝石生産用種結晶の受注減の影響を大型宝石生産用種結晶の受注増で補うことが難しい見通しとなりました。

そのため、大手LGDメーカーからの小型宝石生産用の種結晶の受注が減少して生産能力に余裕が出る見込みとなってきました。当社はこれまで大手LGDメーカーへの種結晶の供給を中心としてきましたが、種結晶供給の要求に応えられなかった小規模なLGDメーカーからの需要にも対応することに方針を変更いたしました。この変更により、多数の新たなユーザーを獲得しつつありますが、2023年3月期第3四半期会計期間における種結晶の売上と比較して、2023年3月期第4四半期会計期間におきましては、種結晶の売上減少は避けられない見込みとなりました。

一方、種結晶以外の製品の売上は、前回発表予想より増加する見込みですが、種結晶売上の減少を補えるほどではありません。

また、前回発表予想では、為替相場が円安に進んでいたことから、想定為替レートを1ドル=140円とし、通期業績予想の売上を設定しました。その後の円高推移により、今回の2023年3月期の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」では、想定為替レートを1ドル=130円とし、通期業績予想の売上を設定しました。この想定為替レートの見通しの変更による通期業績予想の売上減少の影響は約7%と算出されません。

以上のような環境の変化により、上記1記載のとおり修正することといたしました。

LGDは天然ダイヤモンドの枯渇や、SDGsの観点で評価されていることから、LGD市場全体は今後も継続して拡大すると考えております。小型宝石生産用種結晶の需要も早晩回復すると考えており、その需要に、島工場の稼働による種結晶の生産能力拡大及び高効率の生産技術が、貢献するものと考えております。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上